シカゴ大学 くずし字ワークショップ 2019年 夏期講座§初級 一日目 都年中行事







預生の好免の己の日を上己とは、小三月を辰の月かれ、己日を徐日とて文那風代に そ不祥の日とし人と水とといいてはを核りいこのと後三日とか、故國にている人 做いて三月三ちとは後とてでのあり様でしくれになるりにはをれていっぱりと しいりつまし、といかのはうになるはいしていましいとてから人れはなか、 とり接め、称と弦をのへれて、いしいは同せればいはれのなめったようまと 解して夫婦人がをぬりはといれりきとままの我ろうりまれるまとってえ する同り目かろいかのはりているというはのはろかのとはかしてまり くはずりつうといまるのか、全年をめて、登場を至したなりは福 我する女をはる今人くきしの羽、は逆べてきなりれ事の方井の東にかよ えせ机の技供って女児の、ふひろが、べれ聖代のは沿るろうのは称ろ長 まのる人によへ見るみはましのろれいまうがろと飲みしばとける酒にる へ挑き飾りてまるのるなはなす、礼机のそらとろうくの所以ふり

鞍馬花供養

民治門天のりたを、しとなっくむとなったとしてこれのででいろうとろうとうなったらいとうは地でせらる は山花に明け花に夢れりとはのけし、事と称りくり花のよっ在後り込の列をふすり旅の美でます。 らんき 稚児等の法衣等とう貫玄大衆 をらい の水子 着らり はない ない をあらり 在言長以ぼえなるので となる はならは ないの ななられ まない 本等 民沙門天及い昭はに 初みラネがはるまとに は様といって まならら 対機とし 例 ないで 吹きならいて はろらぬ 寄り さいいし はらいて はららな きょうらいて はららら 淡北 発 見の うば うはる

針供養

たろうべんいといまいり、針の供養とが都外は女好の教 強致体、針ととなる、人政豆腐苦苦的にきて日本をあの ころいかいいののははないまではないましてものでははない き風へるのろきしば禁いされななははよりの名称るり るのははなるのと、二月八日、松等証まれりらぶ異なれ まらいのまんのと、状等成立ののよれらせに、お事」とな 状かるはなりてける意意は我とれるまならは のいこれはは強信を放うるるまではなるなのは、 「本華汁」そ了有常然的大松上等方人多る少量汁とるって供 へ又人とは合う」至南京なる用からはこのはよりさらるとい あるはらうないろうにきればはいいはないとろうろう

松の内状都大的以わらうちき門附の中今小名のまて移 まの心は凌りすのに住ちの大作祭りろいが子致して西域童送 國「僕に付き」生と我の国のろりしゅのて中古数かの果のる 曲祭だのり到にかった事う除るる社を行うらすがとせる、水 正の代体第山田と疫病あり一時、の納みれをもしてとしての めるがう一扇は、多ちどうろ、はむまりしょり、最のまじえにもの 村人からさりいっ人ようの立次を成れり国ると思う ープが子、子は、ならけ、刀をおらなる記を致の好から それなられてよりるなるなり なのかのものとりははない 多していろは、このの中間様である。のかのから人の頭 を削き、いる、その回ふるゆうは経をなられたとまして秋天 のも、ははおうか、それかみはれ、孩はるかし、まるいま ことがはまのもようけり

石清水放生會

校生舎は佛教の教理に基づき捕へり生物を放うらないい む、一巻去、母ろ、夏國未受は松花傷る。りしは二十年のは 気サイターし放生ときればはりろりまれないをりり る不良の、幡之に做い国就天皇地え二日はのはの放生今日 毎りれてい、日中状かりるとろしととのころりてりてりるか 一ちいぞこの原語のし上が考は必らはけいいれる人の告る といろいるまろついいなるにはなりりまろはな 外経次供へふ以表一方るれるの加度りは故まうとに らうるころのようからありまるとしよに思るるるはは うりまなずないるはなけれにらはないにおつ、そあり ほのないは同しはやに生かは、してきもりに称りてした 内観をきりかるなかに対けして有なのないというかいろれ きてられ、ハー

こを並不るようては、ふり十十日かり、大孩不然不敢不敢不敢不好のりできながら我の 天皇のけたにはり天がのは代しは名かで到とれるはんきり接着 そてろつくはよいではのなるはってき、今りるおは生後の事はなは 山城法等拿了帮握内在京文生了京使奈分任馬房子各人和使各 全信を内式去をするようのよりいとしは不りいている方は、今日本 出とるが神はのるを記述をすらりりのぬる三四を出のまるからあって 文、上がる対ける同じかする文意はしかるならろと思えのはばり ろのけがは ますべてはあいまりませれまるろを持る小十ちのなれり」馬の扱い いろまれてれたははなるい い、味えばをのけるのからある まる典我力を拿の属的ラナー一幅の後を物と係でしめ やりては、さかしは、するり別の人しははまはのはとはしからすりますの大夫外 といいなう独居っててありより、おんなのちのるとて、木しつけってし 是ならっていたはまあいころはえるいったりいのちまははかからか すななはんの以うちゅうまのでしていいれてるのかいい 調理

小のおあま、こ延暦以降一十年の官闘からし、に往相應の地にて山家水 とてするとうか、注幸相集り書跡相接し古来殿子術の湖 該宗教の書蹟藝苑の中心を各種の文化風俗は遠りまで全國に流 布ーン子蔵の乾を至らりのむしとすさらべは寺民間の京事多くして渡べ 接に堡かりるの母籍の古き亦内國に経絕す今年本書 多中島花陽内数年の心血を強いでこを子さと五十感路に好りて年暮に 終らるる手事欲にてな他とて強物板を生するの大丸に展越すや傷し 小果をき人田ははなかは、そはすれさたのなとせらし、実満成してるにるの 解找我孝と你からる可以仰は成しを思る去かる強生、小すろちをなと財 す三月上己の住去し切と該へ同島,はす人同流書色青華に否保の叛味を くるのるは留すらいの元をおく 有せれな路につきりは徐小僕之と認意して 該に見きなってと後の茶しは努の湖はくり変好いと致りのりゆりりが 張成せり作来、の代を被倒されひにてるのとお供って感典科とうかの & ctantoo 風俗研究所長 工事 務該 昭和三年上已往節